

2026年度企画展

学びのモノづくり

—学校の教材教具・学用品のうつりかわり—



第一単語図 (掛図) 明治7 (1874) 年



石盤・石筆・石盤消し 明治～大正期



地球儀 昭和前期



学校おさなきやうじゅの図 明治前期



教授用大そろばん 昭和期



ランドセル (紙製) 昭和前期



幻灯機 明治期



蓄音機 昭和初期

2026

10/19^月 ▶ 12/20^日

【開館時間】 9:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

【休館日】 日曜・祝日、11/11 (水)

(ただし、11/8 (日)、11/23 (月・祝)、12/20 (日) は開館)

【入館料】 無料 (事前予約不要)

【主催】 玉川大学教育博物館

【協力】 玉川学園小学部 玉川大学教育学術情報図書館

玉川学園総務部管財課 玉川学園教育情報・企画部広報課

玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1
小田急線「玉川学園前」駅下車 南口より徒歩約 15 分
TEL 042-739-8656 E-mail museum@tamagawa.ac.jp



博物館 HP

学びのモノづくり

—学校の教材教具・学用品のうつりかわり—

日本の学校の教材教具や学用品は、時代ごとの教育や社会の変化に応じて使われてきました。明治期には近代的な学校制度が整えられ、教科書をはじめ、石盤や石筆、筆・墨・硯、そろばんなどが学習に用いられました。また、標本や模型、地図、掛図なども導入されるとともに、実物を観察しながら学ぶ教育が重視されるようになりました。

大正期から昭和初期には自主性を重視する教育の広がりにもともない、実験器具や工作用具、楽器など、体験的な学習を支える教材が充実してきました。この頃には学用品の標準化も進みましたが、戦時中には物資不足のため代用品が使われるなど、学用品にも時代の影響が反映されています。

戦後になると、民主化教育の理念のもと、教材教具は児童生徒の主体的学習を促す方向へと再編されました。同時に、視聴覚教育が重視され、映写機、スライド、レコード、後にはテレビやビデオ、OHPなどが普及し、近年はICT活用へと役割を拡張してきています。

本展では、明治期からの小学校の教材教具・学用品を機能・形態別に分類し、それらが教育内容をいかに具体化し、いかに教授・学習を支えてきたかを紹介します。



OHP (オーバーヘッドプロジェクター)
昭和 50 年代



垂鈴 明治期



上皿天秤 昭和期



クレヨン (12色) 昭和前期

体験コーナー

※ 常時開催・参加費無料・申込不要

◆ 石盤と石筆を使ってみよう

明治～大正期の小学生が、ノートと鉛筆の代わりに使っていた石盤と石筆で文字や数字を書き、当時の子どもの学びを体験してみましょう。

◆ OHP を使ってみよう

1960年代後半から学校で使用されたOHPを用いて、透明なシートに書いた文字や図をスクリーンに投影する体験をしてみましょう。

関連イベント

◆ ギャラリートーク ※ 参加費無料・申込不要

日時：10月30日(金)、11月17日(火)、12月5日(土)

各回 14:00～15:00 講師：当館学芸員

◆ ワークショップ ※ 要事前申込(詳細は当館ホームページをご覧ください)

(1) 「葉っぱの掛図づくりに挑戦」

日時：10月31日(土) 10:00～12:00 (9:30 開場)

講師：当館学芸員

(2) 「和装本をつくろう」

日時：11月14日(土) 14:00～16:00 (13:30 開場)

講師：当館学芸員

会場：玉川学園 K-12 東山校舎 B101 教室

定員(各回)：15名 参加費(各回)：500円



※ 駐車場、エレベーターはございません。

※ 諸般の事情により、会期や展示資料などに変更が生じることがございます。最新情報は当館のホームページでご確認ください。